

食品リサイクルループは命をつなぐ環

～未来の子供達に美しい自然を残したい～

ユニーグループ・ホールディングス株式会社
グループ環境社会貢献部
百瀬 則子

エコストアの構築

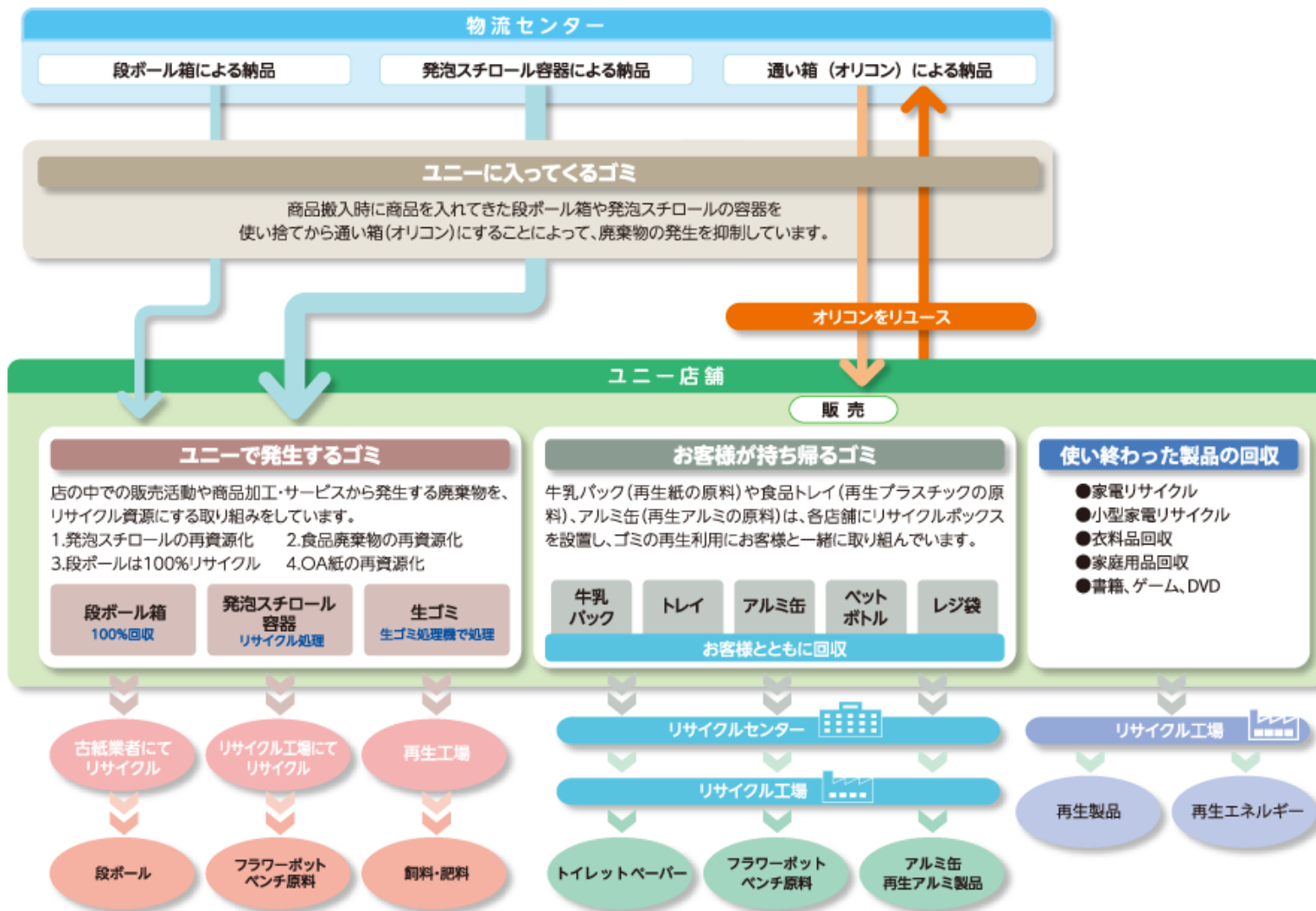
持続可能な社会を目指して

現在のことだけではなく未来に向かって地球環境を壊さずに、人間や地球の生き物が共存していく社会を構築していくこと、この未来に続く仕組みが持続可能な社会です。



ネットワークで切り拓く、再資源化ビジネスへのチャレンジ

◆廃棄物の再資源化 店舗から排出される廃棄物は、分別・計量し、リサイクルもしくは適正処分しています。
販売した商品の容器包装、製品も回収し、再生製品化もしくは再生エネルギー化を図っています。



●小売事業者は、販売した商品を廃棄物ではなく、再生資源化する努力をしています。

営業活動から発生する廃棄物・・・発生抑制・リサイクル推進の取り組み

店舗から排出される廃棄物の発生抑制を図るために、発生場所や原因、種類などを正確に捉えることが必要です。

ユニーでは全店舗に廃棄物計量器を設置し、徹底した分別と排出場所・分類別に計量することにより、発生抑制・リサイクル推進に努めています。

- 分別・・・リサイクル資源として活用するために素材毎に分けること
- 計量・・・廃棄物発生状況を把握し、発生抑制効果を測定すること

廃棄物計量システム



廃棄物は排出場所・分別毎にバーコードで管理し、計量器に載せ、重量を計ります。



シールを発行します。同時にデータは事務所の端末に記録、集計され、本社環境社会貢献部の端末に送信されます。テナントや売場には毎月集計された結果が告知されます。



計量した廃棄物は、それぞれ温度管理された廃棄物庫で保管されます。腐敗しやすい食品廃棄物などは冷蔵保管されます。

営業活動から発生する廃棄物・・・発生抑制・リサイクル推進の取り組み

廃棄物発生量

区分	種類	2009年度	2010年度	2011年度	前年比[%]	
可燃ゴミ	焼却ゴミ	一般可燃ゴミ	12,291,571	12,128,956	12,130,126	100.0%
		ビニール(食品系)	4,837,767	4,779,492	4,319,674	90.4%
		小計	17,129,338	16,908,448	16,449,800	97.3%
	食品ゴミ	生ゴミ	16,196,931	14,777,363	14,174,353	95.9%
		魚のアラ	4,052,794	3,712,463	3,177,342	85.6%
		てんかす	1,217,085	1,302,481	1,220,555	93.7%
		廃食用油	1,441,346	1,417,817	1,371,352	96.7%
		小計	22,908,156	21,210,124	19,943,602	94.0%
不燃ゴミ	ピン	961,344	1,034,530	1,054,398	101.9%	
	缶	558,496	533,041	512,169	96.1%	
	小計	1,519,840	1,567,571	1,566,567	99.9%	
発泡スチロール		1,188,429	1,082,640	982,894	90.8%	
段ボールおよび再生紙	段ボール	41,127,317	40,441,290	40,787,926	100.9%	
	紙類(再生可)	1,966,093	2,012,196	2,110,142	104.9%	
	小計	43,093,410	42,453,486	42,898,068	101.0%	
その他	プラスチック	502,768	477,839	467,949	97.9%	
	ビニール(衣住系)	965,095	966,398	924,381	95.7%	
	ペットボトル	320,172	370,258	370,200	100.0%	
	陶器・ガラス	113,614	121,284	125,519	103.5%	
	金属カス	181,303	152,504	139,464	91.4%	
	その他	489,410	424,671	463,083	109.0%	
	小計	2,572,362	2,512,954	2,490,596	99.1%	
合計		88,411,535	85,735,223	84,331,527	98.4%	

廃棄物構成比



食品ゴミ(未利用食品)は
23.6%でした

スーパーから排出される未利用食品

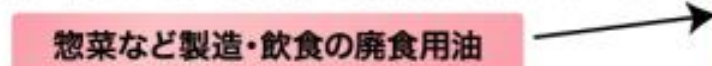
未利用食品の発生原因

- スーパーでは市場や生産地から生鮮食品が搬入され、売り場に出すために調理します。

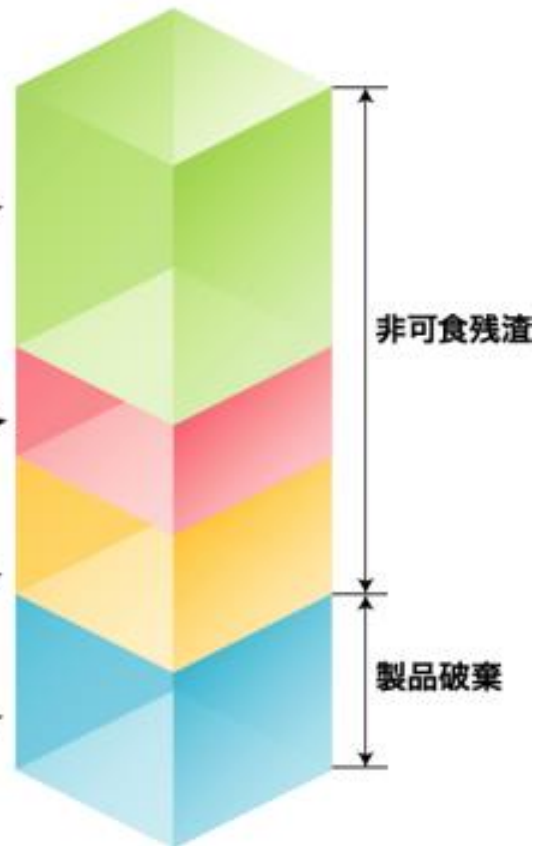
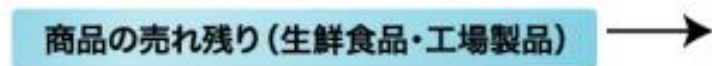
その時に排出する、野菜クズや魚のアラ、精肉クズなど。



- また惣菜やパンなど店内で製造する際、飲食店で調理する際に使用済み廃食用油が排出されます。



- 飲食店などでお客様が残した食品残渣



未利用食品は従来事業系一般廃棄物として、訂正処分されていました。

未利用食品を再生資源化する・・・食品リサイクルループ

未利用食品を再生利用する方法として、堆肥や飼料に資源化し、それを使って生産した農畜産物をまた販売する循環型農業、食品リサイクルループを構築するために取り組みました。

愛知経済連の協力で堆肥を利用する
JAあいち海部のエコ部会が成立し、
ループが完成しました。



<課題>

- 未利用食品を原料にした堆肥の品質が適正であること
- 堆肥場を一般廃棄物処理場として、自治体から許可を得ること
- 他の自治体から未利用食品を搬出・搬入するための許可を得ること
- 農業生産者が、堆肥を使って生産してくれること
- 生産された農作物を販売すること

未利用食品を再生資源化する・・・食品リサイクルループ

複数の自治体にある店舗から排出する未利用食品を原料に堆肥を作り、それを使って農作物を生産し、販売するリサイクルループを構築しました。



<課題>

- 他の自治体から未利用食品を搬出・搬入するために自治体間で協議を図り、毎年更新が必要であること
- 近隣の農業者に堆肥を利用して生産してもらうこと(堆肥の信頼性)

未利用食品を再生資源化する・・・食品リサイクルループ

他県の自治体にある店舗から排出する未利用食品を原料に飼料を作り、それを使って畜産(豚の飼育)をし、販売するリサイクルループを構築しました。

環境省中部事務所の「中部地方における地域循環圏の構築に向けた検討会」に参加し、愛知県名古屋市の再生利用事業者である中部有機リサイクルで、岐阜県多治見市の店舗から排出する未利用食品を飼料化することができました。



<課題>

- 他県の自治体から未利用食品を搬出・搬入するために、協議を図り許可を得ること
- 両方の自治体の一般廃棄物運搬許可を持つ業者が無い場合の運搬契約

未利用食品を再生資源化する・・・食品リサイクルループ

他企業(サークルKサンクス・ファミリーマート)との協働でリサイクルループを構築しました。

また、コンビニエンスストアでも販売しやすい加工食品(惣菜パン)を再生製品として、畜産加工メーカー・製パンメーカーと取り組みました。



<課題>

- 異業種企業の未利用食品を再生利用すること(未利用食品の内容形態が異なる)
- 再生製品を排出店舗で販売すること(商流が異なる)

リサイクルループを構築するパートナーシップ

食品関連事業者・再生利用事業者・
農業生産者、それぞれの役割を果たす
ことによって、リサイクルの環が完成し、
回り続けられます。



食品関連 事業者



食品循環資源を
排出する店舗

- 調理クズ・魚アラ・売れ残り・
残飯などから異物を排除し分別、
計量する
 - ・ 分別マニュアルの作成
 - ・ 従業員・テナントへの教育の徹底
- 食品循環資源の品質を
確保するために、適正に保管する
 - ・ 廃棄物庫の整備 (清掃・冷蔵施設)
 - ・ 保管容器の整備 (分別容器・洗浄)

再生利用 事業者



- 品質の高い再生製品 (堆肥・飼料)
を製造する
原料である食品循環資源・製造方法・
施設・保管の基準作成と監視
- 農業生産者のニーズにあった
再生製品を製造する
再生製品の販売先を確保し、農業生産
者とパートナーシップを図る

農業 生産者



リサイクル農産物を
消費者に提供する

- トレーサビリティの確立
(生産者の顔の見える農産物)
農業生産者の生産技術と適正な再生製
品 (堆肥・飼料) によって、安全安心な
農産物を提供してもらう

食品リサイクルループを実施する社内体制

未利用食品を店舗から撤出し、再生利用事業者から再生製品(堆肥・飼料)を農業生産者に渡すまでが、環境担当部署の役割です。

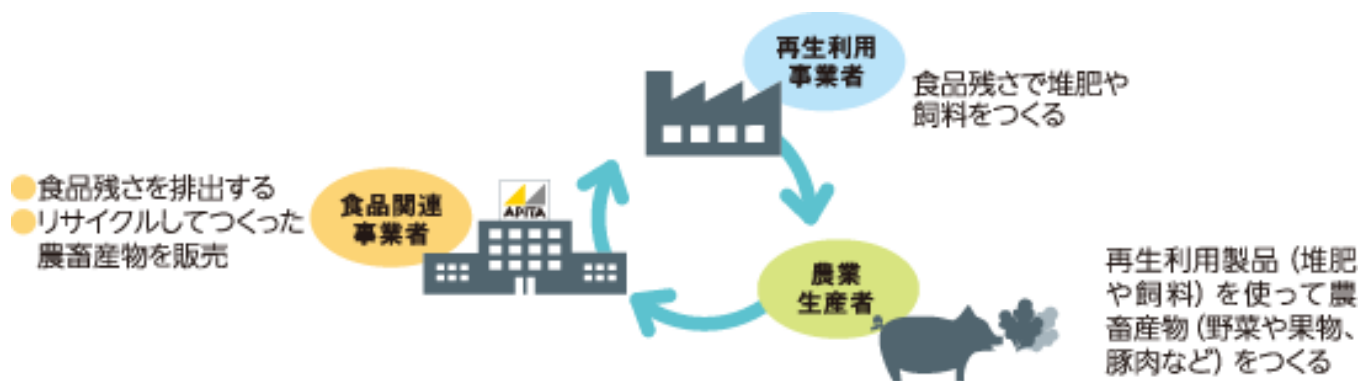
農業生産者と栽培計画について話し合い、販売計画を立て、店舗で販売するまでが、仕入れ・販売担当部署の役割です。

環境担当者の役割

食品残さをリサイクルするためにパートナーを探す

リサイクルループで生産した農作物を販売することを目的としてパートナーを探す

再生製品(堆肥や飼料)を利用する農業者を探す



仕入担当者・販売担当者の役割

リサイクル農作物を販売

生産された農作物を販売するために、社内で検討する

農業生産者と食品関連事業者がパートナーシップを図る

食品関連事業者はリサイクル作物の特徴を消費者へ十分にアピールする

食品リサイクルループによるメリット

食品リサイクルループはバリューチェーンを確立しているため、トレーサビリティが明確で、生産者の顔の見える安全安心な農作物を消費者に提供できる仕組みです。

①地元の農業生産者との協働なので、地産地消の取り組みになる。

→地域農業活性化につながり、小売事業者も生産者とのつながりができ、魅力のある売り場が作れる。



食品リサイクルループによるメリット

②生産者・小売事業者・消費者が互いに情報交換ができ、理解と信頼関係が生まれ、更に生物多様性を守る循環型農業が実現できる。

→再生利用事業者の取組（堆肥場、飼料工場など）視察、農業体験、消費者交流会などを通して、循環型農業を理解し支持する関係ができ、事業が継続拡大していくことができる。

堆肥場見学



消費者交流



農業体験



エコ部会（生産者と販売者）



未来の子供達に美しい自然を残したい



私たちは持続可能な社会の実現のために、
お客様や関係する方たちと一緒に、努めていきます。